



スハミラタイムの意義について

潮見小学校の子どもたちは、縦割り班活動を大変意欲的に行います。スハミラタイム（ス

ーパーハッピーミラクルラッキータイム）と名付けただけあって、毎回、縦割り班活動を楽しむ様子が見られます。異年齢集団に対して抵抗感を示す子がいても不思議はないのですが、潮見っ子はどの子も笑顔でレクリエーションに取り組んでいました。

縦割り班活動には、右のような意義があると考えています。2月27日（金）に行われたスハミラタイムでは、初め

て4年生が、企画、運営を行いました。来年度、5年生になることを見据えて、チャレンジする機会を設定しようと考えました。4年生は、5、6年生がいる中、自分たちが考えたレクリエーションを行い、どの学年も楽しむことができるように工夫していました。縦割り班活動を行う難しさと共にやりがいも感じたのではないかと思います。

3月5日（木）に、今年度最後のスハミラタイムを行いました。これは5年生が計画したもので、そこでは、下学年が6年生に対して感謝の気持ちを表しました。色紙には下学年の子どもたちのメッセージが書かれていたので、6年生はそれをうれしそうに読んでいました。5年生は、4年生以上に来年度の心構えができていたことを感じました。縦割り班活動の成果が表れました。

【縦割り班活動の意義】

- 1 社会性の育成・人間関係の幅の広がり**
 - 異年齢の友達との関わりの中で、多様な価値観や考え方に触れることができる。
 - 同学年の集団以上に「教え合う」「助け合う」の関係が生まれ、コミュニケーション力が高まる。
 - 異年齢では衝突が起きた時の距離感が同学年とは異なり、気をつかったり、言葉選びを工夫したりする。
 - 社会で必要な対人スキルが身に付く。
- 2 学校全体のよりよい関係や一体感の構築**
 - 顔見知りが増えることで、休み時間や行事などが温かく落ち着いた雰囲気になる。
- 3 リーダー性の育成（高学年）**
 - 低学年の前で、高学年は頼られる存在として振る舞う。
→活動の進め方を考える、声を掛ける、危険に気付く、困りごとに対応するなど。
 - 責任感や自分は役に立っているという思いが育つ。
- 4 安心感・あこがれの形成（低学年）**
 - 高学年が優しく教えたり助けたりすることで、学校全体の安心感が高まる。
 - 「自分も大きくなったらあんなふうになりたい」というロールモデルができ、成長意欲につながる。
- 5 自己効力感・自己肯定感の育成**
 - 高学年だけでなく、低学年も「できることが増えた」「褒められた」という経験を積む機会があり、自信がつく。

